



看取りを通して 今 家族が思うこと…

Sさん（101歳 女性 要介護5）は、息子、娘との3人暮らし。

96歳の頃より 認知症があり、排便コントロールがうまくいかず、弊社の訪問看護ステーションの利用が開始された。その後、自宅で転倒し大腿骨を骨折してしまう。高齢のため手術はできず、骨折を機に寝たきりとなってしまった。食べる量も少なくなり、低栄養状態で褥瘡が数ヶ所みられ息子、娘の介護負担が大きいことから看護小規模多機能型居宅介護『ケアホーム希望』を利用することとなった。褥瘡の処置は毎日 看護師が行い、1年かかったが治癒した。その間に息子が入院することもあったが『ケアホーム希望』の「泊まり」や「通い」のサービスを臨機応変に組み合わせ対応し、息子も無事に退院となった。

Sさんは車椅子での生活であるも、元気に過ごしていたが、100歳を超えた頃より食事の量が減り、体力も低下していった。今年のコロナ流行時には感染してしまい、自宅で点滴や在宅酸素療法を行いながら看護師の指導のもと、娘は吸引をしたり、息子と交代で夜間も見守ったりと、一時は死への恐怖もあったが、献身的な介護により無事に生還した。

101歳の誕生日を迎えた頃より更に体力の低下が著しく目立ってきたが、ミキサー食を介助で美味しそうに食べていた。「最期は自宅で看取りたい」と、訪問看護師が毎日自宅に行き、息子や娘と一緒に介護を行っていた矢先、朝食を娘の介助で食べ終えた頃、眠るように旅立っていった。

息子、娘が協力して 母親の 介護をして 約5年。「母の 死について 今 思うことは？」と、尋ねると…「全ての事はやり切った感がある」と言う。何度も死を迎えるような状況になっても生還した母親に対し「どんな状況になったら死ぬのかというイメージがつかなかった」とも言う。

「最期は食事して満腹になり、自分の部屋でいつも来てくれるY看護師のもとで最期を迎えられたことに大満足している。なんの後悔もない」と息子、娘は話す。母がいなくなり、淋しい思いはあるけれど、娘はヨガ教室に通ったり、息子は大好きなジオラマ製作に没頭出来たりと、自分たちの時間を楽しみ始めている。

「母との思い出は、いつも一生懸命働き、美味しいご飯を作ってくれた。暇さえあれば洋裁をしていたり、40歳の頃に 車の免許を取得して活動的な 母が大好きだった」と、息子、娘は口を揃えて話す。

♪ 母は いろいろな人たちに支えられ 幸せだったと思う… ♪



看護師



医師



薬剤師



介護職



ケアマネージャー



訪問看護師



調理師

いろんな方にお世話になりました！

暑い日の脱水予防に フルーツ を食べよう!



ハイ! みんなで
すいか 食べよう!



この スイカ
よく 冷えてて
美味しい!



こりゃ〜
うまいよ!



写真撮影のときのみマスクを外しています

新型コロナウイルス ～第7波 対策のお願い～

国は「新たな感染の波が来たことは間違いない。第7波に入った」との認識を示した。急激な感染拡大により、日本全国で不安と混乱が起こっています。

ケアホーム希望においても、ご家族の方が感染したとの報告を受け、事業所のサービスを継続的に提供していくため、皆様方の対応と対策のご協力を引き続き お願いします。



【ケアホーム希望 における対応とお願い】

● 「通い」サービス時間 短縮のお願い

→ 原則は、15時～16時の時間帯での帰宅

この間に帰宅されている方は、通常より早めの帰宅になることをご承知おきください。

● 利用日数の制限

→ 現在、非感染者の利用制限は 行っておりませんが、利用日数の削減希望やサービスの切り替えについては、担当ケアマネージャーまでご連絡ください。

● 毎朝の体調確認

→ ご家族を含めた毎朝の 体温測定 および なんらかの症状がある場合には、迅速に事業所まで ご連絡をお願いします。

● コロナウイルス陽性者が発生した場合

→ 万が一、陽性者が発生した場合は、行政指導、指示のもと運営を行います。感染が疑われる、濃厚接触者についても同様の対応となります。



ケアホーム希望では、引き続き 職員一同、ご利用者様の健康状態に注意し、社会情勢等の情報収集に努め、**「感染しない・させない」**を合言葉に尽力していく所存です。事業所の継続的なサービス提供、運営のため、皆様方のご理解とご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。